

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室みらい益城教室		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 17日		R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年 2月 25日		R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週2以上の療育を継続的に行っていくことで、スモールステップでの目標設定ができ、保護者との成長の共有がしやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回以上の継続した療育が、1か月単位での目標設定がしやすく、子どもの成長を写真や動画で保護者と共有している。 ・スモールステップでの目標設定をし、関係機関のすべてでこどものための褒める支援の充実につながるようになっている。 	<p>今後も事業所での成長を写真や動画で保護者と共有し、子ども自身の自己肯定感を上げる取り組みとして続けていきたい。</p> <p>週2以上の療育参加へのご協力をいただき、継続した療育の大切さを伝えていきたい。</p>
2	集団でのトレーニングと個別の課題を組み合わせ、全体的にスキルを上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に合わせた声量や対人関係スキルとしての挨拶などを練習している。 ・集団生活での社会的なマナーやルールをスタッフとのやり取りで理解を深める。 ・個別の課題活動で、より細かく支援の充実を図る。 	療育に参加している子どもたちが、先を見据えた地域の社会生活に適應していくことができるように、細かく課題設定をしながら進めていきたい。
3	刺激への配慮をし、子ども自身がはっきりとした目的がわかり、集中しやすい環境設定ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に必要なものを以外は掲示せず、目的を1つに絞り、はっきり見せる。 ・聴覚過敏に対して、イヤーマフの活用や音量の調整。 ・パーテーションなどを使い、外部刺激への配慮。 ・テープやマットなどで、子どもにとってわかりやすい目印をつける。 	子ども達の周りには刺激となるものが多く、事業所として刺激への配慮方法を保護者や関係機関に伝えていくことで、安心した生活環境につながるよう支援していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流がほとんどない	事業所の開所日が平日であるのに対して、地域でのイベントは土日にあることが多く、なかなか接点が少ない。	地域の公共施設を積極的に活用し、療育に参加している子どもたちが、同じ場所を通じて地域の方々や挨拶等をし、コミュニケーションを図れる機会としたい。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子ども支援室みらい 益城教室

公表日 R7年 3月 14日

利用児童数 R7年 2月 28日 回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1		1		
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	2	1	2		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	6					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4			2	・参加出来ないのわかりません。 すみません。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3			3	・そのような事案が発生していない
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5		1		・とても楽しみにしています
	29	事業所の支援に満足していますか。	6				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		子どもが来所時の動線がはっきりするよう必要に応じてパーテーションや壁で仕切りをしている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		感情コントロールや体調不良の子どものためにクールダウン室があり、個別対応ができるようにしている。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6						
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日、朝会で前日の振り返りを行い、職員間での情報共有をしている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・上益城郡内の療育施設全体での研修に参加している。 ・会社内で、月に一回療育研修をしている。				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		株式会社未来パークのホームページに掲載している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6						
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6						
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		みらいでの様子だけではなく、学校の先生との連携もしながら、日々の子どもの小さな変化にも気づけるよう様子観察している。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6						

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6か月ごとにモニタリングを行い、保護者との面談の機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児発管と各家庭の担当職員が参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		適時に行われる担当者会議等で支援内容等の情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保護者からの要望に基づき、進学支援シートを作成し、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6		上益城圏域の児童発達支援センターわいわいなかまさんが企画運営している研修への参加をしている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6			
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		子どもが通っている保育園等との多少の連携はあるが、日程や日時が合わず一緒に活動する機会は今のところない。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		会社全体として保護者に向けて「子育て学習会」を年3回～4回実施している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		年2回「親子レクリエーション大会」を企画し、多くの保護者に参加していただいている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		・ホームページの活用(ブログ) ・年1回の情報誌の配布	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6	事業所で様々なイベントは企画しているが、地域住民を招待したことはない。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を年単位で定期的に行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				